



## 第2章 歯と口腔の健康づくりの推進



## 第2章 歯と口腔の健康づくりの推進

### 1 重点的歯科口腔保健対策

#### (1) 歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上

QOL（生活の質）に大きく関与する食べる喜び、話す楽しみ等の向上を図るためには、歯と口の働きの健全な育成、機能の維持・向上が重要です。子どもの頃から「噛み飲み込むこと」を重点にした取組を進めます。

#### 【取組】

- 口腔機能の獲得および口腔・顎・顔面の成長発育に関する知識の普及啓発
- 口腔機能獲得に影響する習癖の改善を含めた支援と機能訓練等の普及啓発
- 関係機関と連携した「噛ミング30」運動などの食育の推進
- 口腔機能の向上や低下を補うための材料や調理方法の普及
- 口腔機能の維持・向上のための口の体操、唾液腺マッサージ等の普及推進
- 摂食機能療法等、口の機能訓練に関する研修の実施
- 口腔機能評価のための健康診断の実施

#### 【目標項目1】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
1 (1)	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加	97.0%	増加	無
(2)	「噛ミング30」運動（21ページ参照）の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育園・幼稚園 4.3% 学校 16.2% 事業所等 0%	50%	無
(3)	60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加	口腔機能の低下のおそれのない人 (65～69歳 基本チェックリスト 3項目のいずれにも該当しない人) 68.3%(平成22年度)	80%	1
(4)	摂食機能療法（15ページ参照）を行う歯科医療機関の増加	50件 (平成24年10月現在)	増加	1

平成26年1月末現在で、岡山市内の歯科医療機関は434件です。

● 摂食機能療法、歯科訪問診療、バリアフリーなどに関する歯科医療機関の情報を探すには

【おokayama医療情報ネット】 ホームページアドレス：<http://www.qq.pref.okayama.jp>  
 地域や診療内容などから医療機関が検索できるサイトです。



\* 摂食機能療法

…脳血管疾患等による後遺症により、食べる機能の障害がある方等に、嚥下訓練などを行います。

「疾患・治療から探す」→「歯科領域」摂食機能障害の治療→「地域で絞り込む」

\* 歯科訪問診療

…在宅等で療養を行っており、疾病、傷病のために通院による歯科診療が困難な方を対象に行います。

「在宅医療から探す」→「在宅医療」歯科訪問診療→「地域で絞り込む」

\* バリアフリーの歯科医療機関

「その他から探す」→「車椅子利用者に対するサービス内容」スロープ・手すり  
 →「地域で絞り込む」（歯科以外の医療機関も表示されます。）

\* 障害者に対するサービス

「その他から探す」→「障害者に対するサービス内容」手話による対応・点字による表示→「地域で絞り込む」（歯科以外の医療機関も表示されます。）

参考文献 全科実例による社会保険 歯科診療 平成25年4月版（医歯薬出版株式会社）平成25年

## (2) 障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組

障害者（児）や要介護者の歯と口腔の健康の保持・増進への取組を各ライフステージにおいて進めます。

障害者（児）や要介護者の歯と口腔の健康は、全身の健康やQOL（生活の質）への影響も大きく、生涯を通じた日ごろからの口腔のケアが重要です。

### 【取組】

- 家族、介護者に対する歯と口腔のケアに関する知識の普及啓発
- 障害者（児）、要介護者の口腔内状態を施設職員、家族が把握する習慣の普及（動揺歯等の存在を確認することによるリスク管理等）
- 施設等職員に対する歯と口腔のケア、口の機能訓練等の研修の実施
- 定期的な歯と口腔の健康診断の受診勧奨
- 障害者（児）施設、介護老人福祉施設、介護老人保健施設等での歯と口腔のケアの推進
- 歯科医療機関に対しての障害等の状態に応じた診療上の知識や技術の習得に関する研修の実施
- 障害者（児）、要介護者が利用しやすい歯科医療機関の整備の促進（バリアフリー化）
- 歯科分野における病院と診療所の連携推進及び医科との連携推進
- 障害者（児）施設、高齢者施設等と歯科医療機関との連携の推進
- 安全に食べられ、かつ満足できる食事の形態や方法の普及
- 歯科訪問診療・訪問歯科衛生指導の推進

### 【目標項目2】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標(平成34年度)	参考
2 (1)	障害者（児）入所施設での定期的な歯科検診の実施率の増加	66.9%（国）	90%（国）	2
(2)	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加	19.2%（国）	50%（国）	2
(3)	歯科訪問診療（15ページ参照）を行う歯科医療機関の増加	219件 （平成25年10月現在）	300件	無
(4)	バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	230件 （平成25年10月現在）	300件	無

平成26年1月末現在で、岡山市内の歯科医療機関は434件です。

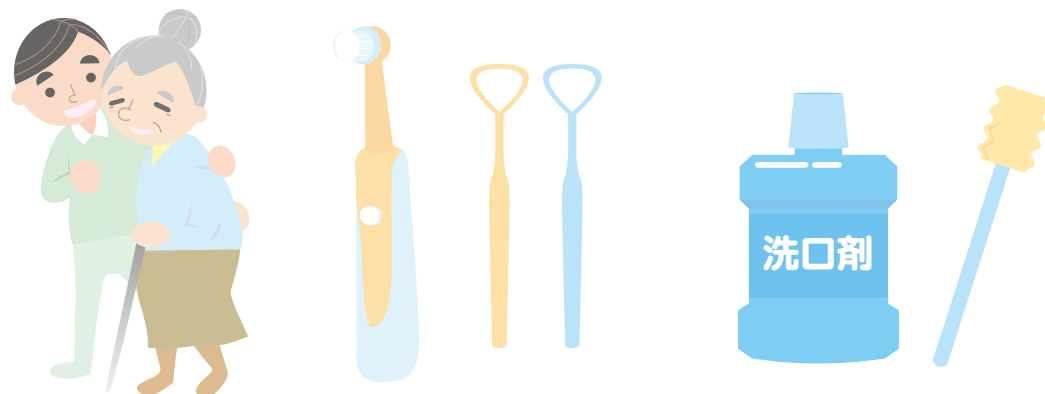
## 障害者（児）、要介護者の健康支援

障害者（児）、要介護者が健康を害すると、ADL（日常生活動作：食事や排泄など、日常生活を営む上で、普通に行っている行為のこと）がさらに低下します。療育やリハビリテーションを継続するためにも、健康であることが必要です。

歯と口腔の健康づくりに関しては、歯科医療従事者が中心となって、家族や施設職員、その他の職種と連携しながら、健康支援を行います。

- 身近な人（家族、施設職員）によるケア
  - 歯ブラシの使用のみでは十分な清掃効果が得られないことが多いため、電動歯ブラシや舌ブラシ、スポンジブラシ、洗口剤、保湿剤など、さまざまな補助具を併用します。
- セルフケア（本人のケア）
- 歯科医療従事者による支援
  - ▶ 定期的な歯と口腔の健康診断のための環境づくりへの支援
  - ▶ 口腔内状態の評価
  - ▶ 本人のセルフケアの評価等
  - ▶ 身近な人によるケアの評価等
  - ▶ 歯科疾患の予防対策等
    - ◆ むし歯の予防（糖分の摂取制限、代用糖の使用、規則的な生活習慣、フッ素の応用等）
    - ◆ 歯周病の予防（歯磨き、洗口液の使用、歯科医療従事者による定期的な口腔のケア等）
    - ◆ 不正咬合の予防（むし歯・歯周病の予防、口腔習癖の除去等）
    - ◆ 口腔機能の維持・改善（摂食機能療法等）
- 保健、医療、福祉、教育等の関係者との連携

スペシャルニーズ デンティストリー 障害者歯科（医歯薬出版株式会社）平成25年 より引用



## 2 ライフステージに応じた歯科口腔保健対策

### (1) 乳幼児期

#### 【特徴】

乳歯が生え、食生活の基本ができる時期です。この時期は、健全な歯・口腔の育成が重要です。また、1歳6か月児と3歳児の間は、間食などによる食習慣の乱れが、むし歯の発生や進行に影響します。さらに、虐待を受けている乳幼児の中には、口腔の状態が悪化している例も見受けられます。

#### 【目指すもの】

前歯でかじりとったり、唇を閉じて奥歯で噛んだり、口全体を使って、きちんと食べることができるようになるための健全な歯と口腔の育成を目指します。

#### 【取組】

- 離乳食から幼児食への移行時期における適切な食形態等、口腔機能の獲得および口腔・顎・顔面の成長発育に関する知識の普及（卒乳、手づかみ食べ等）
- 保育所・幼稚園・おやこクラブなどでの健全な歯と口腔の育成のための研修会の実施
- 口腔機能の向上のための乳幼児向けの調理方法等の普及
- 口腔機能獲得に影響する習癖の改善を含めた支援と機能訓練等の普及啓発
- 保育所・幼稚園・おやこクラブなどでの「噛ミング30」運動の推進
- 保護者が乳幼児の歯磨きを行い、口腔内を確認する習慣の普及
- 間食の意義や間食回数および甘味飲料の減少など適切な食生活に関する知識の普及
- 早い時期からのフッ素の利用促進等、むし歯予防に関する取組の推進
- 保育所・幼稚園における集団フッ素洗口の推進
- 歯科医療従事者等が、口腔内の状態から虐待を早期発見できる知識の普及
- 歯科医療従事者が乳幼児の状態に応じた対応ができるための知識の普及と研修の実施
- 託児や子どもを遊ばせるスペースのある歯科医療機関の普及と情報提供





【目標項目3】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
3 (1)	「噛ミング30」運動（21ページ参照）の主旨を理解し、推進に取り組む幼稚園・保育所の増加	4.3%	100%	無
(2)	3歳児でむし歯のない幼児の割合の増加	78.1%	90%	1
(3)	3歳児で定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	57.6%（市）	70%	無
(4)	フッ素洗口を実施している幼稚園・保育所の増加	9 幼稚園 6 保育園	増加	1

平成25年度、岡山市内には68の市立幼稚園、53の市立保育園があります。

食べる機能の発達

食べる機能は、発達に合わせた適切な食事の形態や方法によって身につきます。

離乳の上手な進め方	指しゃぶりは大切 なんでも口に入れてみたい	下唇に合図してからとらせます	舌でつぶせる硬さの食べものをお口の前から順番に	歯ぐきでつぶせる硬さの食べものを使った一口量のかじりとり	口へ詰め込みすぎたり食べこぼしをしながら覚える
月齢	離乳準備期 (4~5か月)	離乳初期 (5~6か月)	離乳中期 (7~8か月)	離乳後期 (9~11か月)	離乳完了期 (12~15か月)
口唇と舌の動きの特徴	半開き、上下唇ともほとんど動かない 舌は前後運動が中心	口唇を閉じて飲む 上唇の形を変えずに下唇が内側に入る また舌の前後の動きがみられる	左右同時に伸縮 上下唇がしっかり閉じて薄くみえる 舌の上下の動き(押しつぶし)	片側に交互に伸縮 上下唇がねじれながら協調咀嚼やく側の口の角が縮む 舌の左右への動き	上肢・手指と口の動きの協調運動を覚える 自分で道具を使った食べる動きの学習

離乳中期ごろまでは、食べ物を食べさせながら、唇で食べ物を取り込む動き、舌で押しつぶす動き、歯ぐきですりつぶす動き、つぶした食べ物を唾液と混ぜ合わせて飲み込む動きなどを身につける時期です。離乳後期は、目と手と口をどのように動かせば上手に食べられるようになるかを繰り返し練習し、一人で食べる準備をする時期なので、十分に「手づかみ食べ」をさせましょう。

また、食事はいつも楽しい雰囲気でき、そして離乳の進め方は、焦らず、急がず、ていねいに、を心がけましょう。

乳幼児の摂食指導—お母さんの疑問にこたえる—（医歯薬出版）平成12年 より引用

## (2) 学 齡 期

### 【 特徴 】

乳歯から永久歯に生え替わる時期です。生えたての永久歯はむし歯になりやすく、また、生え替わりの時期の口の中は磨きづらくなるなど、食生活など生活習慣の影響を受けやすい時期です。

### 【 目指すもの 】

健全な歯と口腔の育成と自分の口の健康を守るための生活習慣を身につけることを目指します。

### 【 取組 】

- 口腔機能の獲得および口腔・顎・顔面の成長発育に関する知識の普及啓発
- 児童生徒・教職員・保護者を対象とした健康教育の実施（受診勧奨、食べ方等）
- 口腔機能の獲得に影響する習癖の改善を含めた支援
- 学校等における「嚙ミング30」運動の推進
- 間食回数や甘味飲料の減少など適切な食生活に関する知識の普及
- 適切な歯磨き方法や歯間ブラシなどの補助的清掃用具についての知識の普及
- フッ素の利用促進等、むし歯予防に関する取組の推進
- 学校における集団フッ素洗口の推進
- 学校関係者との連携の推進
- 教職員を対象とした歯科保健対策の推進
- 学校歯科医を対象とした学校歯科保健活動等に関する研修の実施



### 【 目標項目 4 】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
4 (1)	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加	97.0%	増加	無
(2)	「嚙ミング30」運動（21ページ参照）の主旨を理解し、推進に取り組む学校の増加	16.2%	100%	無
(3)	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少	25.1% (国：中学生・高校生)	減少	2
(4)	12歳児の一人平均むし歯数の減少	0.72本	0.3本	1
(5)	フッ素洗口を実施している学校の増加	10 小学校	増加	1

平成25年度、岡山市内には91の市立小学校があります。



## 「噛ミング30」(カミングサンマル)

乳幼児期は、歯と口の機能の発達状態に応じた「飲み方、噛み方、味わい方」などの「食べ方」の機能発達を促す支援、成人期は、「食べ方」による生活習慣病対策に関わる支援、高齢期では、歯と口の機能の維持の支援や機能の減退による誤嚥や窒息の防止を始めとする支援が必要です。

「噛ミング30」運動とは、十分に歯・口を使う「食べ方」を通じて食育推進を展開し、国民の健康増進を図ろうと、厚生労働省が「ひとくち30回以上噛む」ことを目標として、健全な食生活を推進するために提唱した運動です。30回というのは、窒息防止や五感での味わいを考慮し、従来から噛む回数を目途とされている回数です。



歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書  
「歯・口の健康と食育～噛ミング30 (カミングサンマル) を目指して～」 平成21年 より引用

## フッ素によるむし歯予防

むし歯予防には、間食回数や甘味飲料の減少など適切な食生活やフッ素の利用といった総合的な取組が重要です。その中でも、社会で健康を守り、すべての人々が健康に過ごすことができるために、フッ素によるむし歯予防は効果的です。個人で使っても、集団で使っても効果が確認されています。フッ素によるむし歯予防は、幼児期から高齢期まで、あらゆる年代の人に有効で、特に、生活習慣をきちんと自立しにくい小児、障害者(児)、高齢者にとって、不可欠な方法です。

### フッ素の具体的な利用方法、利用場所およびむし歯予防効果(率)

フッ素の利用方法	利用場所	むし歯予防効果(率)
フッ素塗布	歯科医院、保健センターなど	約20～40%
フッ素入り歯磨き剤	家庭、学校、幼稚園など	約20～30%
フッ素洗口	家庭、学校、幼稚園など	約20～80%



参考文献 新予防歯科学 第3版 (医歯薬出版株式会社) 平成18年

### (3) 成人期・妊娠期

#### 【特徴】

健全な口腔状態の維持のために、食生活や歯磨きに関する指導、むし歯及び歯周病の予防並びに糖尿病の治療や喫煙習慣の改善なども含めた生活習慣の改善が重要です。

また、女性にとって、妊娠、出産は大きなライフイベントです。日ごろの生活習慣を見直す好機でもある一方、生活が大きく変化します。女性ホルモンの分泌量の増加等によって、歯周病に罹患しやすくなったり、食生活の変化やつわり等により口腔衛生状態が悪化しやすい状態になったりします。

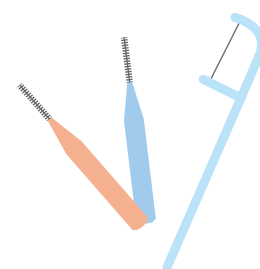
#### 【目指すもの】

自分の口の健康を守るための生活習慣を確立し、病気がなくても気軽に歯科医院に相談できるようになることを目指します。

子育て世代では、自分自身の口の中を健康に保ちつつ、生まれてくる子どもの歯と口腔の健康を守るための知識を身につけることを目指します。

#### 【取組】

- 歯や口腔の病気がなくても気軽に相談できる歯科医師の確保の推進
- 適切な歯磨き方法や歯間ブラシなどの補助的清掃用具についての知識の普及
- 歯周病と喫煙や糖尿病等の生活習慣病との関係に関する知識の普及
- 間食回数や甘味飲料の減少など適切な食生活に関する知識の普及
- フッ素の利用促進等、むし歯予防に関する取組の推進
- 妊娠による口腔への影響に関する知識の普及と歯の健康診断の受診勧奨
- 大学・事業所等における歯科健康教育の実施
- 定期的な歯と口腔の健康診断の受診勧奨
- 大学・事業所等と連携し、歯科検診が受けやすい環境の推進
- 禁煙を希望している人への支援
- 成人式等の機会を利用した歯科保健に関する啓発
- 大学・事業所等での「噛ミング30」運動の推進
- 口腔機能の維持・向上のための口の体操、唾液腺マッサージ等の普及推進
- 産科医療機関等と歯科医療機関との連携の推進
- 託児や子どもを遊ばせるスペースのある歯科医療機関の普及と情報提供



## 【目標項目5】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

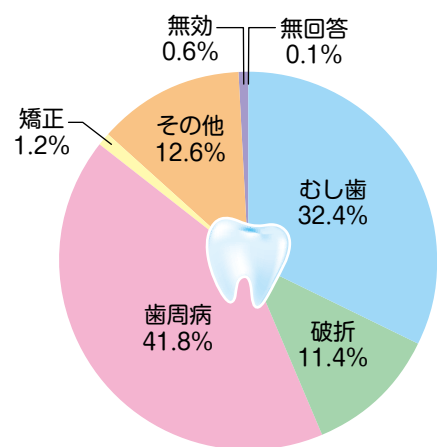
番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
5 (1)	過去1年間に歯科検診を受診した人の増加	29.5%	65%	1
(2)	成人の喫煙率の低下(喫煙をやめたい人がやめる)	18.1%	8%	1
(3)	「噛ミング30」運動(21ページ参照)の主旨を理解し、推進に取り組む事業所等の増加	0%	8.5%	無
(4)	40歳で喪失歯のない人の増加(35～44歳)	72.7%	80%	1
(5)	歯周病を有する人の割合の減少(40歳代における進行した歯周炎を有する人の減少(40、45歳))	48.0% (平成21年～23年度)	25%	1
(6)	60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加(55～64歳)	64.6%	70%	1

### 歯を抜く原因

食べる機能を維持するためには、噛むための歯を失わないことが大切です。

歯が失われる原因の第一位は「歯周病」で、第二位は「むし歯」です。また、「破折」は神経をとった歯が割れてしまうことが多いので、「むし歯由来」と考えることができます。

「むし歯」と「歯周病」を予防して、生涯を通じて、食事や会話を楽しみたいですね。



「永久歯の抜歯原因調査報告書」  
(8020推進財団) 平成17年 より引用

## (4) 高 齢 期

### 【 特徴 】

入れ歯や口の乾燥、唾液の減少等で歯の自浄作用が低下することにより、歯や口腔のトラブルをおこしやすくなります。筋力の低下や歯の喪失等による口腔機能の低下を防止することで、8020健康長寿社会の推進を図ります。

### 【 目指すもの 】

食事や会話に不自由なく過ごせることを目指します。



### 【 取組 】

- 歯や口腔の病気がなくても気軽に相談できる歯科医師の確保の推進
- 定期的な歯と口腔の健康診断（口腔機能評価も含む）の受診勧奨
- 歯と口腔のケアと肺炎等との関係に関する知識の普及
- 口腔機能の維持・向上のための「噛ミング30」運動や口の体操、唾液腺マッサージ等の普及推進
- 口腔機能の低下のおそれがある人への歯科健康教育等の実施および歯科治療の受診勧奨
- 口腔機能の低下を補うための材料や調理方法の普及
- 入れ歯の清掃方法等、適切な取り扱い方法の周知
- 歯と口腔のケアの徹底や口腔機能の維持のための医科歯科連携の推進
- 歯科訪問診療・訪問歯科衛生指導の推進
- 高齢者が利用しやすい歯科医療機関の整備の促進（バリアフリー化）
- 介護予防関係機関等との連携推進
- 認知症など歯科治療に影響を及ぼすような高齢期の課題に関する研修の実施（市民向け・歯科医療従事者向け）
- 介護老人福祉施設、介護老人保健施設等での歯と口腔のケアの推進

\*介護老人福祉施設…特別養護老人ホーム

寝たきりや認知症などにより、常に介護を必要とする高齢者が、日常生活の中で必要な介護を受けながら生活する施設

\*介護老人保健施設…老人保健施設

病状が安定し、在宅復帰を目指す高齢者が、医学的な管理の下で、日常生活に必要な介護や看護、機能訓練を受けながら生活する施設

【目標項目6】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

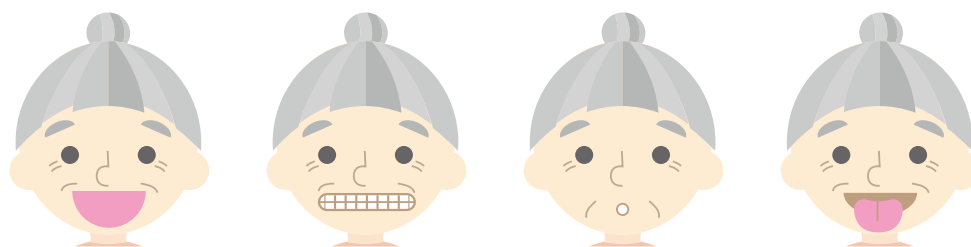
番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
6 (1)	60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加	口腔機能の低下のおそれのない人 (65～69歳 基本チェックリスト 3項目のいずれにも該当しない人) 68.3% (平成22年度)	80%	1
(2)	過去1年間に歯科検診を受診した人の増加	29.5%	65%	1
(3)	摂食機能療法(15ページ参照)を行う歯科医療機関の増加	50件 (平成24年10月現在)	増加	1
(4)	歯科訪問診療(15ページ参照)を行う歯科医療機関の増加	219件 (平成25年10月現在)	300件	無
(5)	バリアフリー(スロープ・手すり)の歯科医療機関の増加	230件 (平成25年10月現在)	300件	無

平成26年1月末現在で、岡山市内の歯科医療機関は434件です。

歯と口の働き (口腔機能)

加齢に伴い、口の周りの筋肉も衰え、噛む力や飲み込む力が弱まります。歯磨きをして口の中をきれいに保つことや、口の体操を行い、安全に飲み込むための筋力を保つことが大切です。

また、「摂食機能療法」といって、脳血管疾患等による後遺症により、食べる機能の障害がある方等に、嚥下訓練などを行います。



参考文献 平成23年度老人保健事業推進費等補助金 介護予防事業の指針策定に係る調査研究事業  
「介護予防マニュアル改訂版」平成24年



## (5) 要介護者

### 【特徴】

要介護者の歯と口腔の健康は、単に口の中だけでなく、発熱や肺炎等全身の健康へも影響を及ぼすため、日ごろからの口腔のケアが重要です。

### 【目指すもの】

介護者や本人が歯や口腔のことで困らずに、安全に食べられ、会話を楽しむ生活ができることを目指します。

### 【取組】

- 家族、介護者に対する歯と口腔のケアに関する知識の普及啓発
- 要介護者の口腔内状態を施設職員、家族が把握する習慣の普及（動揺歯等の存在を確認することによるリスク管理等）
- 施設等職員に対する歯と口腔のケア、口の機能訓練等の研修の実施
- 歯と口腔の健康診断（口腔機能評価を含む）の定期的な受診勧奨
- 介護老人福祉施設、介護老人保健施設等での歯と口腔のケアの推進
- 障害等の状態に応じた診療上の知識や技術の習得に関する研修の実施
- 要介護者が利用しやすい歯科医療機関の整備の促進（バリアフリー化）
- 歯科分野における病院と診療所の連携の推進及び医科との連携の推進
- 高齢者施設等と歯科医療機関との連携の推進
- 安全に食べられ、かつ満足できる食事の形態や方法の普及



### 【目標項目7】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標(平成34年度)	参考
7 (1)	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加	19.2% (国)	50% (国)	2
(2)	歯科訪問診療（15ページ参照）を行う歯科医療機関の増加	219件 (平成25年10月現在)	300件	無
(3)	バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	230件 (平成25年10月現在)	300件	無

平成26年1月末現在で、岡山市内の歯科医療機関は434件です。

### 3 歯と口腔の健康づくりを支え、守るための環境づくりの推進

どんな健康な人であっても、歯と口腔のケアは定期的に受けることが必要です。市民自らが自身の歯と口腔の健康づくりに取り組むため、歯科保健医療を生活の一部として利用できるよう、環境を整備することは重要です。

推進にあたっては、市、市民、保健・医療・福祉・教育等関係者、歯科医療従事者、事業主のそれぞれが情報を共有し、お互いに必要な知識を持ち、連携・協力して歯科口腔保健を推進することができるよう環境整備を行っていきます。

#### (1) 市の役割

##### 【取組】

- 口腔機能に関する知識の情報提供と普及啓発
- 休日・夜間に診療する歯科医療機関、バリアフリーの歯科医療機関、歯科訪問診療を行う歯科医療機関、託児等のある歯科医療機関等についての情報提供
- 歯と口腔の疾患に関する知識の情報提供と普及啓発
- 歯と口腔の健康づくりに関して学ぶ機会の提供（市民向け・医療機関向け）
- 歯と口腔の健康診断及び相談の実施
- 歯と口腔の健康診断の受診勧奨
- むし歯予防（フッ素の利用促進等）、歯周病予防に関する取組の推進
- 関係機関、団体と連携した歯と口腔の健康づくりの推進
- 医科・歯科連携体制の推進

#### (2) 市民の役割

##### 【取組】

- 歯や口腔の病気がなくても気軽に相談できる歯科医師をもつ
- 自分や家族の口腔内に興味を持つ
- 定期的に歯と口腔の健康診断を受ける
- 歯と口腔のケアに関する知識と技術を学ぶ
- 適切な歯磨き方法を学び、補助的清掃用具（歯間ブラシ等）を使用する

### (3) 保健、医療、福祉、教育等の関係者の役割

#### 【取組】

- 患者自身（介護者含む）が行う口腔衛生管理についての普及啓発
- 歯と口腔の健康づくりに関して学ぶ
- 医科歯科連携に関して学ぶ  
(周術期の口腔機能管理、糖尿病患者等に対する歯周病治療、肺炎予防のための口腔のケア等)
- 口腔機能の獲得・維持・向上のため、「噛ミング30」運動の推進
- 歯と口腔の健康づくりの推進に関する調査研究、情報収集及び提供の推進
- 歯科医療関係者や教育関係者、介護関係職等、多職種との連携の推進
- 入所者や職員等に対する定期的な歯と口腔の健康診断の実施

### (4) 歯科医療従事者の役割

#### 【取組】

- 乳幼児、障害者を対象とした口腔機能獲得のための研修の実施
- 高齢者、障害者を対象とした口腔のケア、口腔機能の維持・向上のための研修の実施
- 訪問歯科診療・訪問口腔指導を希望する人が受けやすい環境の整備
- 障害者（児）、要介護者が利用しやすい歯科医療機関の整備の促進  
(バリアフリー化)
- 禁煙を希望する人に対する禁煙支援
- 高齢者や障害者（児）の施設等における歯と口腔の健康診断  
(口腔機能評価を含む)の定期的な実施への協力
- 歯科医療関係以外の他団体等との連携強化、協力体制の整備
- 学校歯科医を対象とした学校歯科保健活動等に関する研修の実施
- 口腔内の状態から虐待を早期発見できる知識の普及



## (5) 事業主の役割

### 【取組】

- 定期的な歯と口腔の健康診断（歯磨き指導・歯石除去等を含む）の受診勧奨
- 歯と口腔の健康診断を受診しやすいような環境整備
- 社員食堂等での噛むことの大切さが認識できるメニューの提供
- 歯磨き場所の確保と整備
- 歯間ブラシなど補助的清掃用具の紹介
- 健康保険組合等による歯科医療費の分析

### 【目標項目8】

\* 参考欄等の説明は30ページに記載しています。

番号	目標項目	現状(平成23年度)	目標 (平成34年度)	参考
8 (1)	「噛ミング30」運動（21ページ参照）の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育園・幼稚園 4.3% 学校 16.2% 事業所等 0%	50%	無
(2)	歯科訪問診療（15ページ参照）を行う歯科医療機関の増加	219件 (平成25年10月現在)	300件	無
(3)	バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	230件 (平成25年10月現在)	300件	無
(4)	職場で歯科検診を行っている事業所の増加	1.3%	15%	無

平成26年1月末現在で、岡山市内の歯科医療機関は434件です。

### 医科医療機関と歯科医療機関の連携

がんの治療や脳血管疾患等によって、体力の低下が懸念される場合などには、口の中の細菌が原因で、肺炎を起こす可能性が高くなります。そのため、手術や化学療法を受ける前後や受けている間に、口腔のケアを受けることがあります。

お医者さんと歯医者さんとの共同作業で身体もお口も健康になります。



参考文献 「歯科標榜病院における医科・歯科連携に関する調査報告書」

（公益社団法人日本歯科医師会、日本歯科総合研究機構）平成25年  
地域医療の新たな展開－医科歯科連携事例集（財団法人8020推進財団）平成21年

【参考欄等についての説明】

- \* 「1」は「健康市民おかやま21（第2次）」に掲載されている目標項目
- \* 「2」は国の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に掲載されている目標項目
- \* 「無」は、今回独自に盛り込んだ目標項目
- \* 薄緑色の目標項目は、重点的歯科口腔保健対策の目標項目の再掲